

フランスにおけるバカロレア について

大場 淳
広島大学高等教育研究開発センター



<http://www.lemonde.fr/>

1. バカロレアの概要
2. バカロレア合格者の推移
3. バカロレア取得後の高等教育進学
4. 大学における学習状況
5. 課題と展望

1

1. バカロレアの概要

- バカロレア＝国家免状
 - 中等教育修了資格
 - 大学第一学位(保持者はbachelier)
- 起源は中世大学
 - 学芸学部修了時の学位
- 大学廃止後、1808年に現在に至るバカロレアが制定
 - 帝国大学傘下の学部(faculté)への入学
 - グランド・ゼコルの受験
 - 公務員試験等の受験

2

- 1821年、科学バカロレア創設(文学との分離)
- 1830年、記述試験の導入
- 1840年、ラテン語作文の導入
 - その後、数々の改変、廃止の検討(複数)
- 1968年、技術バカロレア創設
- 1985年、世代保有率80%が政府目標となる(1989年、法律で規定)、職業バカロレア創設
- 1986年、大学入学者選抜の検討(ドバケ改革案)
- 2007年、登録前の事前指導、大学の情報公開(学位取得率等)について法律(ペクレス法)で規定

3

バカロレアの種類と試験

- バカロレアの種類
 - 普通バカロレア(baccalauréat général)
 - 自然科学系(S: scientifique)
 - 人文科学系(L: littéraire)
 - 社会科学系(ES: économique et sociale)
 - 技術バカロレア(baccalauréat technologique)
 - 職業バカロレア(baccalauréat professionnel)

4

技術バカロレア

- サービス産業系(STT: sciences et technologies tertiaires)
- 工業系(STI: sciences et technologies industrielles)
- 化学系(STL: sciences et technologies de laboratoire)
- 医療系(SMS: sciences et techniques médico-sociales)
- 農産系(STPA: sciences et technologies du produit agroalimentaire)
- 農環境系(STAE: sciences et technologies de l'agronomie et de l'environnement)
- 舞台芸術系(TMD: techniques de la musique et de la danse)
- ホテル業系(Hôtellerie)

5

職業バカロレア

- 様々な職業資格につながる専門領域
 - 各種事務
 - 製造業
 - サービス産業
 - 建設業

等全58種類



BAC Professionnel Restauration en apprentissage, Académie de Grenoble

6

普通バカロレア・自然科学系の試験

	科目	係数	試験方法	時間	備考
必修科目試験	仏語	2	筆記	4時間	
	仏語	2	口述	20分	
	数学	7又は9	筆記	4時間	専門の者は係数9
	物理・化学	6又は8	筆記及び実践	3時間30分+1時間	専門の者は係数8
	生命・地球科学又は工学	6又は8 4+5	筆記 筆記及び実践	3時間30分 4時間+3時間	専門の者は係数8
	歴史・地理	3	筆記	4時間	
	現代外国語1	3	筆記	3時間	
	現代外国語又は地域語2	2	筆記	2時間	
	哲学	3	筆記	4時間	
	体育・スポーツ	2	定期試験		

7

専門科目試験	数学又は物理・化学又は生命・地球科学	2	口述	30分	自己の専門と同じ科目を選んだ際は、必修科目試験に統合する。
	体育・スポーツ追加試験	2	定期試験		体育・スポーツが専門の者は必修。
	指導付個別課題学習	2	口述	3人のグループで30分	選択した者のみ対象で、平均点以上のみが2倍に考慮される。
	現代外国語		口述又は筆記	20分又は2時間	2科目まで選択できる。10以上の点のみが考慮され、第一選択科目（一つしか選ばない場合も含む）については、2倍に考慮される。
地域語		口述	20分		
ラテン語		口述	15分		
古代ギリシャ語		口述	15分		
体育・スポーツ		定期試験又は集中試験			
芸術（音楽等から選択）		口述	30分		

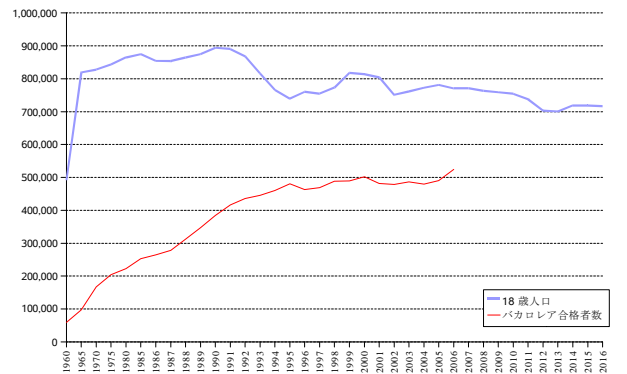
8

試験の合否判定

- 各教科20点で満点
- 係数処理後の平均点10点以上が合格(8点以上は追試験受験が可能)
- 成績評価(mention)
 - 秀(très bien)(平均16点以上)
 - 優(bien)(平均点14点以上16点未満)
 - 良(assez bien)(平均12点以上14点未満)
 -
 - 可(passable)(平均10点以上12点未満)

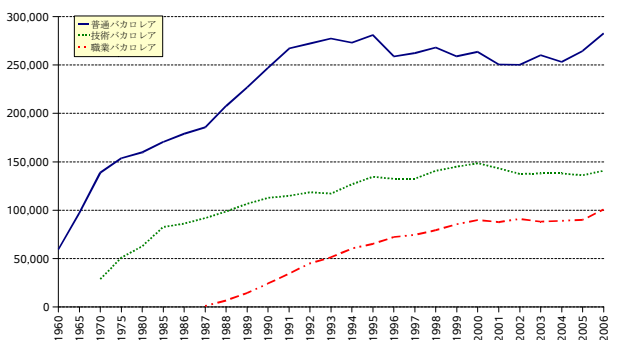
9

2. バカロレア合格者の推移



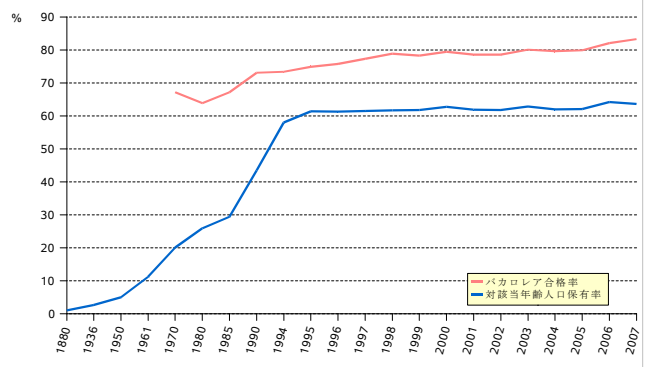
10

種別合格者数の推移



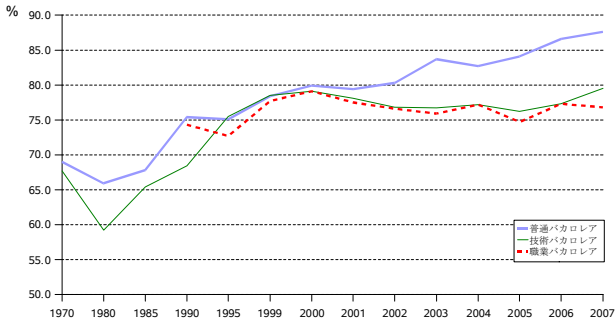
11

バカロレアの合格率と対該当年齢人口保有率



12

バカロレア種類別合格率

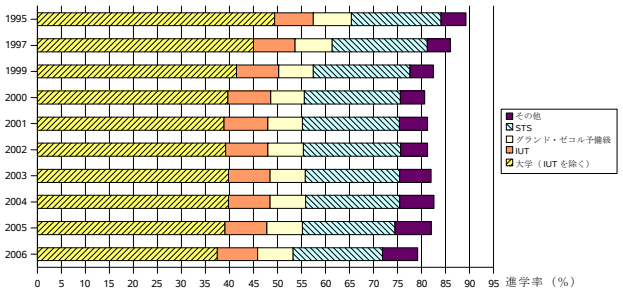


バカロレアの変化

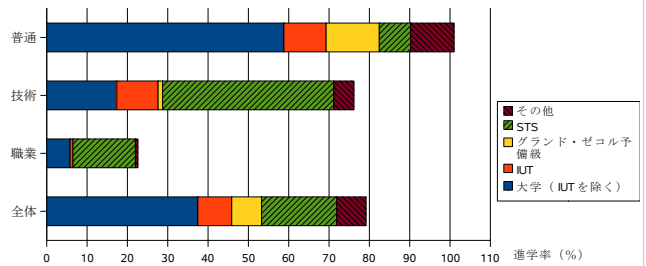
- 数的変化～まとめ
 - 1990年代前半までに合格者数は急速に上昇、その後はほぼ一定
 - 合格率は近年僅かに増加傾向、普通バカロレアの伸びが主たる原因
 - 世代保持率は近年6割強で推移
- 質的变化
 - 市場価値の減少と選抜機能の低下
 - 一部の者から試験問題の難度低下の指摘
 - 国民教育省は一貫して否定
 - 試験問題の対象は時代とともに変化

3. バカロレア取得後の高等教育進学

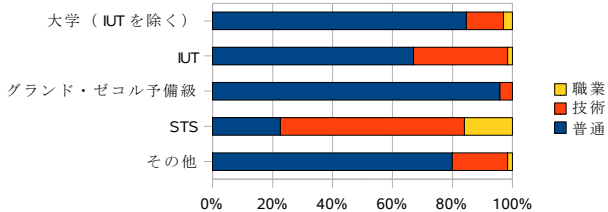
バカロレア取得後の高等教育進学状況



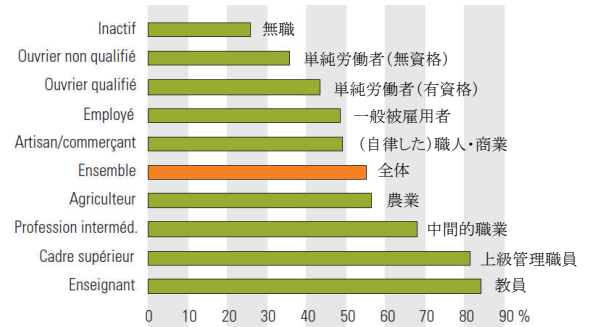
バカロレア種類別進学状況 (2006年)



高等教育機関別のバカロレア種別出身者構成比率 (2003年)



出身階層別の進学率



* panel des élèves entrés en 6^e (hors SEGPA) en 1989

Source : MEN-MESR-DEPP

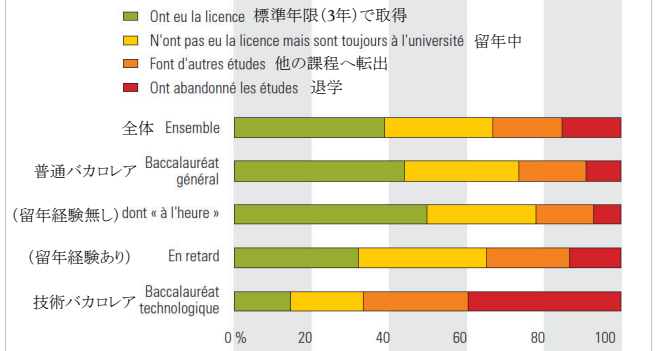
積極的進路指導(orientation positive)

- 2007年の大学の自由と責任に関する法律(ペクレス法)第20条で創設
- 希望大学への事前登録が義務化
 - 大学による教育情報の提供(プログラム、実施状況、将来の進路等)
 - 進学希望者による成績表、将来計画、希望する進路の提出
 - 大学から希望者に適した進路についての助言
 - 最終的進路を各申請者が自主的に決定

19

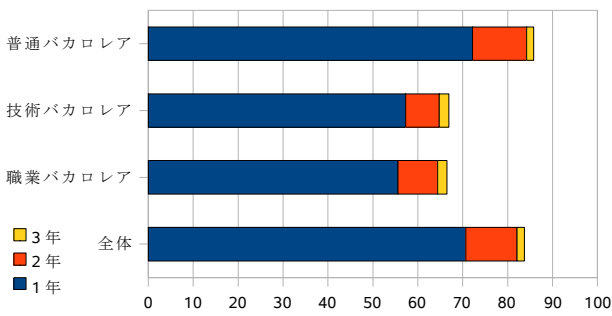
4. 大学における学習状況

2002年バカロレア合格者の学士(licence)取得状況



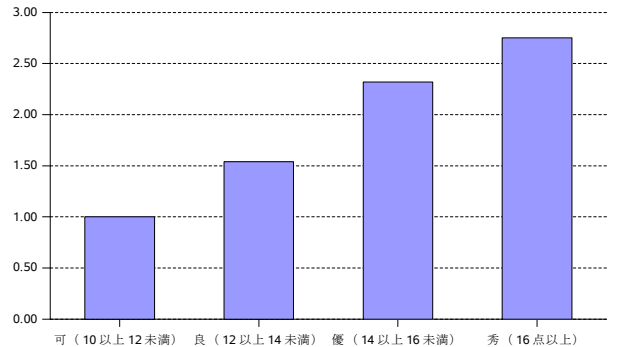
Source: panel 1989 MEN-MESR-DEPP L'état de l'École 2007, 28

学士課程3年目(L3)合格に要した年数



21

普通バカロレア成績別の大学での試験成績の比較(可を1とした場合の合格可能性の比率)



Gruel L. (2002) Les conditions de réussite dans l'enseignement supérieur. OVE Infos - La Lettre de l'OVE numéro 2 - avril, 1-8.

22

教科間における比較

試験年間平均点数の説明変数の貢献度(説明分散率:R²)

変数群	生命科学	経営管理	心理学
従前の学習成果 (scolarité antérieure)	28.6	26.9	16.8
学習態度・学習法 (métier d'étudiant)	3.3	6.4	13.3
社会人口的特徴 (caractéristiques socio-démographique)	0.2	0.8	0.2
生活条件 (conditions de vie)	0.3	0.6	0.7
大学の差異 (site universitaire)	2.3	0.7	2.1

Michaut C. (2004) L'évaluation de la réussite en premier cycle universitaire. In *Pratiques pédagogiques dans l'enseignement supérieur: enseigner, apprendre, évaluer*. édité par Annoot E. et Fave-Bonnet M.-F. L'Harmattan, Paris. pp 223-250.

23

5. 課題と展望

- バカロレアの大衆化と市場価値・選抜機能の低下
- バカロレア種別・成績と入学後の成績の高い相関
 - 成績と社会的背景
 - 教科による相違
- 課題と展望
 - バカロレアの実施
 - 採点の厳密性
 - 実施の経費
 - 適切な進路指導の必要性(入学前、入学後)
 - 入学後の学習支援体制の整備

(参考文献)

- 大場淳(2005)「フランスのバカロレアと高等教育の質保証に関する一考察」『高等教育の質保証に関する国際比較研究』COE研究シリーズ16. 広島大学高等教育研究開発センター, 69-94頁.
- 藤井佐知子(2005)「フランスにおける接続問題」荒井克弘・橋本昭彦編『高校と大学の接続: 入試選抜から教育接続へ』玉川大学出版部, 277-294頁.

24

RIHEメールマガジンNo.6(平成16年3月1日発行)掲載

フランスのエリート校の新しい入学者選抜制度

大場 淳

フランスの高等教育は、大学とそれ以外の高等教育機関(エコール)によって担われ、後者の中には社会的評価の高いグランド・ゼコルと呼ばれる学校群があることはよく知られていることである。そのグランド・ゼコルの中でも特にエリート養成校として知られるパリ政治学院(通称「シアンヌ=ポ」)が、2001年の新学期より、経済社会的に恵まれない地域である教育優先地区(ZEP)の高校出身者を対象とした特別選抜制度を設けた。

シアンヌ=ポに入学するには通常厳しい入学試験に合格しなければならないが、特別選抜制度は、ZEPに位置する提携高等学校(当初7校、今年度は18校)から推薦を受けた者の可否を面接のみによって決定するものである。この制度の趣旨は、入学者選抜を身に付けた知識の量に拠って行うのではなく、潜在的可能性に基づいて行うことにあるとされる。伝統的にシアンヌ=ポ入学者の多く(8割以上)は上流階級の子供で占められ、近年その傾向が強まってきたことから「社会的差別」として一部から非難を受けていたことも、当該制度導入の理由であった。

この新しい制度の提案に対して、歓迎する声がある一方で、試験は平等であるべきと提案を非難したり、入学者の質の低下を危惧したり、対象校が限られていることから「社会的差別」への単なる言い訳と見なしたりするなど、学内外の反応は様々であった。とは言え、特別選抜制度の提案はシアンヌ=ポ理事会で圧倒的多数で可決され、2001年新学期には本制度によって17人が入学した。しかしながら、一部の反対者は本決定の有効性について法令上疑義があるとし、その決着は裁判所に持ち込まれることとなった。裁判は2年以上かかったが、昨年11月、パリ行政控訴院は一部手続の不明瞭さを指摘しつつも本制度の適法性を認め、この争訟はほぼ決着した。

本制度が提案されてから既に3年が経過した。その間、当該制度によって3度に渡る入学者選抜が行われ計87人が入学し、ある程度その評価も行われている。当該評価は、多様化しているものの原則として機械的に平等な入試を行っている我が国の大学に対して様々な示唆を与えると思われるが、それについては機会を改めて紹介することとしたい。



シアンヌ=ポの中庭(平成16年1月30日撮影、メールマガジンでは配信されていません)

[シアンヌ=ポへのリンク](http://www.sciences-po.fr/)(<http://www.sciences-po.fr/>)

【追記(平成18年7月23日)】

シアンヌ=ポは、上に述べた特別選抜制度で入学した学生の状況をホームページで公開している。それによると、成績は一般入学者と較べて遜色がなく、また他の学生と同化(intégration sociale)しているとされ、それについての学外からの受け止め方も肯定的のようである。その一方で、特別選抜制度の恩恵を受ける対象は限られており、当該制度は象徴的な行為にしか過ぎないといった批判も少なくない。しかしながら、こうした取組は全国的な広がりを見せており、他の高等学院(グランド・ゼコル)の多くで採用されるようになった。また、2005年1月17日、国民教育大臣等政府関係3大臣と大学長会議、高等学院会議、技術学院長会議は「卓越した教育への進学への機会均等のための憲章」を締結し、教育優先地区等に位置する高校の生徒を対象とする進学支援措置の拡大を図ることに合意した。2006年1月、シラク大統領は高等学院予備級進学者の三分之一を奨学生にするという目標を提示し、2006年秋の新学期に向けて国民教育省によって大規模な高等学院予備級進学キャンペーンが展開されている。

【追記(平成19年7月31日)】

2006年7月には、最初に入学した者のうちの修士課程登録者15人中13人が卒業した。2006-2007年度までに特別選抜制度で入学が認められた者は264名で、政府の拡大方針を受けて、2006年秋の入学者は75人に達した。特別選抜入学者の学業成績は一般入試を経て入学した者と同等とされており、更に全ての学年で成績上位群に位置する学生が複数存在している(Science-P

(2006) *Conventions éducation prioritaire (CEP) – Bilan de l'année 2006 : Des résultats concrets, une ampleur croissante*. Auteur, Paris.). シアンス＝ポは特別選抜制度によって多様な学生が入学したことを高く評価しているが、今後の本制度の進展並びにそれによって入学した者の卒業後の動向が注目される。

【追記(平成20年3月21日)】

本制度第一期生である2006年秋の卒業者の就職状況は良好であった。シアンス＝ポの特別選抜担当者シリル・ドレ氏は、彼らが職を見付けるのには全く問題はなかったばかりでなく、多様性を求める一部の企業から非常に熱心な勧誘があったことを伝えている(2006年9月30日付フィガロ紙)*。特別選抜の対象校及び入学者は更に拡大し、2007年選抜では対象校は56校(前年48校)、合格者は95人(前年75人)に及んだ。2007年のグラール高等教育・研究担当大臣報告書(L'Enseignement supérieur en France : État des lieux et propositions)が述べるように、当該制度の対象範囲は限られ効果が限定的であることは否めないが、学外からは広く好意的に受け止められているようである。例えば、ジョルジュ・フルジ氏(ボルドー第二大学教授、高等教育研究会(RESUP)会長)は、雑誌(Le Mensuel n° 6, juin 2006)の取材に対して、通常社会的・経済的エリートに限定されている教育を受ける機会を提供することは非常によいことであり、更に拡大すべきであると述べている。また、それぞれに方式は異なるものの、今日までに全ての高等学院(グランド・ゼコル)が特別選抜制度を設け(前述フィガロ紙記事)、格差解消に向けた取組の広がりが認められる。

*ドレ氏は、特別選抜制度について2006年秋に本にまとめている: Delhay, Cyril (2006) *Promotion ZEP, les nouveaux élèves de sciences-po*. Hachette Littérature, Paris.

(参考文献)

- 上原秀一(2007)「パリ政治学院、優先教育地区(ZEP)出身の初の卒業生」文部科学省生涯学習政策局調査企画課編『諸外国の教育の動き2006』国立印刷局、117-118頁。
- 園山大祐(2004)「フランス高等教育におけるアフーマティブ・アクションの導入—パリ政治学院の「多様性の中にみる優秀性」に関する一考察」日仏教育学会年報第10号、100-111頁

[大場淳の頁へ](#)